

A. 主な動き

1. 内政

▼A EIの動き

・9日、ルプ大統領代行(民主党党首)は、国内の複数の銀行に対する敵対的買収に関する議会公聴会は、自由民主党及び共産党の政治的利害関係に基づいたものであるとし、実施の必要はない旨発言。

・12日、ルプ大統領代行は、同大統領代行の大統領候補擁立に異論を有している者は、A EI評議会において同問題を積極的に提起するべきである旨発言。

・15日、フィラト首相(自由民主党党首)は、9月下旬に予定されている議会再開後に、閣僚交替の可能性を再度追求する旨発言。

▼その他

・9日、共産党の大統領候補であるグレチャニ前首相は、次期大統領に選出されても、フィラト首相の辞任を要求することは無い旨発言。

・13日、憲法裁判所は、証拠書類の準備不足を理由に、議会による7月5日のムルヤヌ最高裁判所長官の罷免決議案採択の合憲性に関する審議を10月4日に延期。

2. 経済

▼IMF

・13日、ゲオルギエフ氏を団長とするIMFのミッションがレビューのために到着。

・14日、IMFミッションは、教育部門の改革に関し、教育省と会談。

▼ガス問題

・13日、ティラスポリトランスガスは、2012年1月1日から、沿ドニエストル住民は、各家庭に無料で設置されるメーターに応じ、ガス料金を支払う旨の決定を発表。

・15日、パルリコフ国家エネルギー規制局長官は、モルドバガスは、ガス料金を現在の1,000立方メートルあたり4,599レイから5,921レイに値上げするよう求めている旨コメント。

・15日、モルドバガスと露ガスプロム間のガス供給及び輸送価格に関する契約交渉が開始。

3. 外政

▼11～14日、フィラト首相のフィンランド、スウェーデン及びノルウェー訪問

・12日、フィラト首相は、カタイネン・フィンランド首相と会談、二国間関係、東方パートナーシップの枠組みにおける協力、沿ドニエストル問題等につき協議。

・12日、フィラト首相は、ハウタラ・フィンランド発展協力相と

会談、二国間関係、フィンランドの対モルドバ支援、モルドバの欧州統合プロセス等につき協議。

・13日、フィラト首相は、ラインフェルト・スウェーデン首相と会談、モルドバの国内改革、欧州統合プロセス、スウェーデンの対モルドバ支援等につき協議。

・14日、フィラト首相は、ストルテンベルグ・ノルウェー首相と会談、二国間関係、両国の国内情勢、沿ドニエストル問題等につき協議。ストルテンベルグ・ノルウェー首相は、モルドバの経済改革に対するノルウェーの支援の用意につき表明。

・14日、フィラト首相とガール・ストレー・ノルウェー外相は、二国間相互査証簡略化合意に署名。

▼15～18日、フィラト首相の第8回ヤルタ会合参加

・16日、フィラト首相は、ヤヌコーヴィチ・ウクライナ大統領と会談、二国間関係、両国の欧州統合プロセス、9月末にワルシャワで開催予定の東方パートナーシップ・サミット等につき協議。双方は、最近の良好な二国間関係を評価、貿易経済問題に関する政府間委員会の活動を再開することで合意。

・16日、フィラト首相は、クリューエフ・ウクライナ第一副首相兼経済発展・貿易相と会談、モルドバ・ウクライナ間の国境間移動の問題を中心とした二国間関係深化につき協議。

▼その他

・12日、モスクワを訪問したヴォロニン共産党党首は、ナリシユキン露大統領府長官と会談、喫緊の二国間問題等につき協議。

・15日、欧州議会は、大統領選出、経済改革による投資環境改善及び汚職対策の実行、少数民族保護の法律採択、沿ドニエストル問題解決等を条件にモルドバにEU加盟の展望を付与する旨の勧告を採択。ブゼク欧州議会議長は、欧州議会はモルドバの努力を支持していることから、モルドバに対しEU加盟の展望を付与した旨発言。

・15日、フィラト首相は、フィーレ欧州拡大・近隣政策担当委員と会談、モルドバの欧州統合、東方パートナーシップ・サミット等につき協議。双方は、欧州議会勧告をモルドバによる前進と評価。

4. 沿ドニエストル

▼8～9日、OSCE主催信頼醸成会議(於:独バード・ライヒェンハル)

・フィラト首相はスミルノフ沿ドニエストル「大統領」と会談、「5+2」公式交渉再開の見通し等につき意見交換。双方は、沿ドニエストルにおける鉄道運行再開に向けた作業継続に合

意、信頼醸成措置強化及び二者間協力発展に関する専門家作業部会の規定に署名。

・9日、ルプ大統領代行は、同協議の実施は12月の「大統領」選挙に向けたスミルノフ沿ドニエストル「大統領」の選挙運動の一環であった旨発言。これに対し、10日、フィラト首相は、同発言は沿ドニエストル問題解決プロセスに否定的な影響を及ぼすものであるとし、同発言を公式に撤回するようルプ大統領代行に要請。

・10日、フィラト首相は、専門家作業部会規則の署名等の成果に言及、「5 + 2」者公式交渉再開の決定が近く採択されるべきとコメント。

・12日、スミルノフ沿ドニエストル「大統領」は、8～9日にドイツで開催された信頼醸成会議について、沿ドニエストルはモルドバの一部であったことはなく、モルドバの領土一体性に関する問題を協議するつもりはない、右問題を議題に含めようとする試みは協議の失敗につながる、沿ドニエストルはモルドバと同等の立場で協議に臨む用意がある旨伝達したと発言。

・12日、アシュトンEU外交安全保障政策上級代表は、同協議は「5 + 2」公式交渉に向けた肯定的な動きであると評価する旨の声明を発表。同日、アジュバリスOSCE議長(リトニア外相)は、同協議が近い将来の「5 + 2」公式交渉の再開に繋がることを望む旨の声明を発表。

・13日、ヌーランド米 국무省報道官は、同協議に関し、「5 + 2」公式交渉再開に向けた前進を歓迎する旨発言。

・14日、ウクライナ外務省は、8～9日の信頼醸成会議開催を受け、「5 + 2」者公式交渉が再開されるよう期待する旨の声明を発表。

・15日、フィラト首相とヤヌコーヴィチ・ウクライナ大統領は、第8回ヤルタ会合において、「5 + 2」者公式交渉が近く再開されるよう期待を表明。

▼その他

・14日、シェフチューク「革新」党前党首は、12月の「大統領」選挙への出馬を表明。

5 . 防衛

▼武器輸出

・13日、国防省は、軍の使用期限切れ弾薬をラトビアの会社に販売、リビアからラトビアとの荷物引取契約に基づくIL-76輸送機が飛来した旨発表。販売されるリストは2001年6月30日に議会承認を受けたものだが、取引価格は明らかにされていない。

・14日、国防省は、IL-76輸送機が使用期限切れ大砲及び対戦車システムを含む60トンの軍装備品をモルドバから運び出した旨発表。

・15日、IL-76輸送機がさらに30トンの軍装備品を引き取るためモルドバに飛来したことを国防省で確認した旨報道。

本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と標記しています。
(了)